セイフティーネットプロジェクト横浜主催

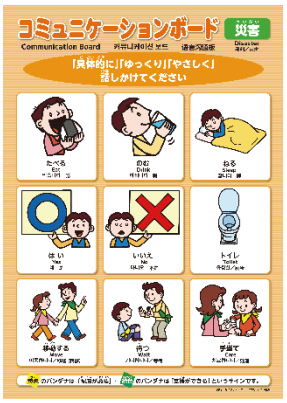
自閉症や知的障害のある方のコミュニケーション支援に関する研修会

令和８年８月５日（水）、横浜市健康福祉総合センター４階ホールにて、研修会を開催しました。当日は、WEB 参加も含めて、学校や障害福祉関係の職員など、８３名に参加いただきました。

『コミュニケーションボード』とは…

自閉症や知的障害のある人の中には、言葉だけでなく、わかりやすい絵記号や写真などを使うことでコミュニケーションがスムーズになる人もいます。『セイフティーネットプロジェクト横浜（以下『Ｓネット』）』では、平成１７年からコミュニケーションのバリアフリーを広げるため、『コミュニケーションボード・カード』の作成と普及活動を行ってきました。

今回の研修では、『Ｓネット』事務局からこれまでの取り組みを報告し、参加者へ『コミュニケーションボード・カード』の活用を呼びかけました。



災害用コミュニケーションボード

支援の現場から～コミュニケーションカード等の実践報告～

『コミュニケーションカード』等を取り入れ、支援をしている青山隆氏（南福祉ホームむつみ）から、試行錯誤しながら取り組んだこれまでの実践をお話していただきました。

青山氏は「写真や絵カードを支援に取り入れるときには、本人の好きなことや興味のあることから取り入れるとよい」と活用のポイントを説明されました。そして、「私たちは運転手ではなく、ナビゲーター。本人の目標を把握・設定し、本人が自分で見てわかるように、伝えていく役割を担っている。写真カードや視覚支援は、伝える手段の一つです。」と話されました。



南福祉ホームむつみの青山氏

障害理解を広げていくために



障害者地域活動ホームあさひの田島所長

Ｓネットでは、障害のある人と家族、事業所の職員たちが地域の人たちと知り合うために、地域防災拠点の訓練などで、出前講座（※）を行っています。

今回は、昨年度、旭区内で行った出前講座を田島研一所長（障害者地域活動ホームあさひ）に実演していただきました。また、災害時に備えた繋がりづくりのために、地域防災拠点の運営委員会の参加など、日ごろの取り組みについてもお話していただきました。

※　出前講座について



出前講座で使用する紙芝居

障害のある人や家族、支援者が、地域の会合に出向いて、自分たちのことを伝えていく出前講座が広がっています。

『Ｓネット』では、誰でも行えるようにシナリオを作成し、災害時に避難場所等で、知的障害や自閉症のある人へ支援いただきたいポイントや、コミュニケーションボードの使い方などを紹介しています。

詳細は、右の二次元コードよりホームページをご覧ください。

参加者の声

「コミュニケーションボードについて、学校の中でも使えそうだなと思った。」「コミュニケーションの大切さや現場の話も聞くことができて、とても勉強になりました。人の言葉は、機嫌や体調で変わることも実感していたので、気をつけながら言葉かけだけでなく、次に何をするかの見てわかるように伝えていきたいと思います。」などの感想が寄せられました。

これからも、『Ｓネット』では『コミュニケーションボード・カード』の普及活動を進めていきます。ご興味のある方は、インターネットで『セイフティーネットプロジェクト横浜』を検索し、ホームページをご覧ください。

＜問い合わせ先＞

セイフティーネットプロジェクト横浜事務局：横浜市社会福祉協議会　障害者支援センター

℡：045-681-1211　　Fax：045-680-1550